

マイルストーン開示に係る事業計画の修正について

(平成24年12月期～平成26年12月期)

平成24年12月21日

上場会社名 カルナバイオサイエンス株式会社

(コード番号：4572 JQグロース)

(URL <http://www.carnabio.com/>)

問合せ先 代表取締役社長 吉野 公一郎

取締役経営管理本部長 相川 法男

TEL：(078) 302 - 7075

本日(平成24年12月21日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」を受けまして、平成24年2月10日公表のマイルストーン開示に係る事業計画及び平成24年7月20日公表のマイルストーン開示に係る事業計画を下記のとおり修正いたします。(表中の修正箇所は__を付して表示しております。)

1. 今後の業績目標 (平成24年12月期～平成26年12月期)

1) 全社

【修正前】

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成24年12月期 (計画)	<u>728</u>	<u>△305</u>	<u>△289</u>	<u>△296</u>
平成25年12月期 (目標)	1,340	135	153	151
平成26年12月期 (目標)	1,350	120	135	133

【修正後】

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成24年12月期 (計画)	<u>504</u>	<u>△462</u>	<u>△452</u>	<u>△460</u>
平成25年12月期 (目標)	1,340	135	153	151
平成26年12月期 (目標)	1,350	120	135	133

(注) 平成25年12月期以降の業績目標に関しては、現在編成中の平成25年12月期～平成27年12月期中期経営計画がまとまり次第速やかに開示してまいります。

2) 事業別

【修正前】

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	創薬支援事業	創薬事業	計	創薬支援事業	創薬事業	計
平成24年12月期 (計画)	<u>628</u>	<u>100</u>	<u>728</u>	<u>94</u>	<u>△399</u>	<u>△305</u>
平成25年12月期 (目標)	940	400	1,340	318	△182	135
平成26年12月期 (目標)	1,150	200	1,350	486	△366	120

【修正後】

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	創薬支援事業	創薬事業	計	創薬支援事業	創薬事業	計
平成24年12月期 (計画)	<u>504</u>	<u>二</u>	<u>504</u>	<u>44</u>	<u>△506</u>	<u>△462</u>
平成25年12月期 (目標)	940	400	1,340	318	△182	135
平成26年12月期 (目標)	1,150	200	1,350	486	△366	120

(注) 平成25年12月期以降の業績目標に関しては、現在編成中の平成25年12月期～平成27年12月期中期経営計画がまとまり次第速やかに開示してまいります。

2. プロジェクト毎の研究開発計画

創薬事業における研究開発計画

【修正前】

ステージアップ数	前臨床⇒臨床（又は導出）		1	1
	探索⇒前臨床（又は導出）	2	1	1
研究テーマ数		5	5	5
		平成24年12月期	平成25年12月期	平成26年12月期

【修正後】

ステージアップ数	前臨床⇒臨床（又は導出）		1	1
	探索⇒前臨床（又は導出）	1	1	1
研究テーマ数		4	5	5
		平成24年12月期	平成25年12月期	平成26年12月期

（注）平成25年12月期以降の研究開発計画に関しては、現在編成中の平成25年12月期～平成27年12月期の中期経営計画がまとめ次第速やかに開示してまいります。

3. 修正の理由

本日別途公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」の通り、創薬支援事業における売上高の減少、ならびに創薬事業における当社研究テーマのライセンスアウトに係る収益計上が翌期以降にずれ込む見込みであることから、また研究テーマのステージアップが1テーマとなる見込みであること等から、事業計画を修正いたします。詳細は以下の通りであります。

1) 売上計画の修正について

① 創薬支援事業

イ) 地域別売上計画

平成24年12月期における創薬支援事業の地域別売上計画について、国内市場は、前回公表計画を44百万円下回るものの、前連結会計年度比では21百万円増の307百万円と致しました。北米市場については前回公表計画を49百万円下回り、前連結会計年度比37百万円減の117百万円と致しました。欧州につきましては、前回公表計画を21百万円下回り、前連結会計年度比7百万円減の64百万円と致しました。その他地域は、前回公表計画を8百万円下回る14百万円を計画しております。

地域別の売上状況につきましては、特に北米地域において、製薬企業等の研究所の統廃合の影響を受け、厳しい結果となりましたが、販売ネットワークの再構築も徐々にその成果が出始めており、来期以降の売上拡大につなげてまいります。その他地域においては、中国におけるキナーゼタンパク質販売が伸び悩んだことから、前回公表計画を下回る見込みであります。つぎに国内売上については、前回公表計画を下回る結果となりましたが、トップセールスのもと大型ビジネス案件を発掘するという方針のなかで獲得した小野薬品工業株式会社からの大規模スクリーニング受託ビジネスを成功事例として横展開を図ってまいります。欧州においては、新規顧客の獲得が継続的な課題であり、販売代理店契約の締結等による販売力強化に取り組んでまいりましたが、大きな成果を得ることはできませんでした。NTRC社との関係強化を通じて、売上拡大を目指してまいります。

ロ) 製品別売上計画

製品別では、プロファイリング・スクリーニングサービス及びアッセイ開発において、前回

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価および投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。

公表計画を上回る見込みであります。特に、本年10月に締結した小野薬品工業株式会社との業務資本提携契約に基づく大規模キナーゼスクリーニング・サービスがプロファイリング・スクリーニングサービスの売上増に寄与するとともに、当期下半期には北米における当該売上が回復傾向にあることから、順調に推移しております。しかしながら、キナーゼタンパク質販売については、バルクタンパク質の提供を拡大しスケールメリットを享受すべく、Abnova社とのキナーゼタンパク質に係るOEM提供契約の締結並びに国内外の販売代理店との関係強化等の諸施策を講じてまいりましたが、特に欧州、その他地域でのタンパク質販売が伸び悩んだことから、前回公表計画を下回る見込みであります。また、その他におきましては、オンリーワンの製品及びサービスを拡充することで当社グループの特長をさらに伸ばし、他社との差別化を図る取り組みを行ってまいりました。その中で、本年7月には、独立行政法人国立がん研究センターより技術移管を受け、細胞内におけるリン酸化シグナルの網羅的解析サービス（以下「RPPAサービス」という）の事業化を行うとともに、製薬企業並びに公的研究機関等に対し、RPPAサービスの紹介、拡販を進めてまいりましたが、潜在顧客への訴求が行きとどかなかったこと等から、当期下半期に計画していた売上数値に対して大幅未達となる見込みであります。また、米ACD社が提供するチロシンキナーゼに係るセルベースアッセイサービスは順調に推移し、前連結会計年度を大幅に上回る売上を計上する見込みであります。米CAI社が提供するセルベースアッセイサービスとあわせて、前回公表計画に対しては大幅未達となる見込みであります。

以上により、前回公表計画の売上高628百万円を今回公表計画において504百万円に修正いたしました。各地域別の対前計画比ならびに前連結会計年度売上高実績との比較を表にまとめると、以下の通りであります。

(単位：百万円)

地 域	売上高			対前計画比 (B/A)	対前連結会計 年度比 (B/C)
	前回公表計画 (A)	今回公表計画 (B)	前連結会計 年度 (C)		
日 本	351	307	285	87.4%	107.6%
北 米	166	117	154	70.4%	76.0%
欧 州	86	64	71	75.1%	90.3%
その他	23	14	55	62.8%	27.0%
計	628	504	567	80.3%	88.9%

② 創薬事業

当社の創薬事業における重要な経営課題は、当社研究テーマに係るステージアップであり、化合物の最適化段階から前臨床試験段階への研究のステージアップにくわえ、収益計上のみならず当社の企業価値向上に資する製薬企業等とのライセンスアウト（導出）契約の締結に伴う契約一時金の獲得、ならびに導出後の研究テーマの研究進捗に係るマイルストーン収入の獲得であります。

後述の「2）プロジェクト毎の創薬事業における研究開発計画の修正について」における記載のとおり、ガン疾患を重点領域と位置づけ、キナーゼ阻害剤の創製に取り組んだ結果、平成24年12月期第3四半期には、SBIバイオテック株式会社との共同研究テーマであるCDC7キナーゼ阻害剤研究が前臨床段階にステージアップいたしました。その他のガン領域並びにその他疾患領域の研究テーマにつきましてもステージアップを目指し研究を進めてまいりましたが、これら創薬研究と同時並行で進めてまいりました製薬企業等へのライセンスアウト交渉は契約締結に至らず、翌期以降に持ち越しとなる見込みであります。

以上により、前回公表計画の平成24年12月期の創薬事業売上計画100百万円は計上を見送る計画に修正いたしました。

当社は、引き続き導出交渉を継続し、早期ライセンスアウトを実現してまいります。

2) プロジェクト毎の創薬事業における研究開発計画の修正について

当社の創薬事業では、現在4つの研究テーマでキナーゼ阻害剤の創製に向けて創薬研究を行っております。特に、ガン領域を重点領域としており、SBIバイオテック社との共同研究テーマであるCDC7キナーゼ阻害剤をはじめ、独立行政法人国立がん研究センターとの共同研究テ

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価および投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。

マであるTNIKキナーゼ阻害剤及び当社単独の研究テーマであるBTKキナーゼ阻害剤の研究が進められております。これらの研究成果として、CDC7キナーゼ阻害剤の研究テーマは、当期において前臨床試験段階へのステージアップを達成し、前臨床試験の開始に向けての準備段階にあります。また、BTKキナーゼ阻害剤はガンのみならず免疫炎症疾患への適応が期待されており、当社の研究リソースを重点的に投入してまいりました。化合物最適化の最終段階にきているものの、前臨床段階へのステージアップは翌期以降に持ち越されることとなりました。TNIKキナーゼ阻害剤および株式会社キノファーマとの共同研究テーマであるDYRK1Aキナーゼ阻害剤についても、共同研究先との協働のなかで積極的に研究を継続してまいりました。

以上により、平成24年12月期の創薬事業の研究開発計画について、研究テーマ数を4、「探索⇒前臨床（又は導出）」のステージアップ数を1に修正することと致しました。

3) 販売費及び一般管理費について

当社グループでは、継続的に事業の効率的運営を目指して経費節減に取り組んでまいりました。平成24年12月期においても、さらなる経費削減に取り組んでおり、その結果、当連結会計年度の販売費及び一般管理費は前回公表計画に比し16百万円減の762百万円を見込んでおります。一般管理費のうち、研究開発費については、前回公表計画比13百万円増の378百万円を見込んでおります。

4) 損益計画の修正について

以上の結果、平成24年12月期の連結売上高は、前回公表計画を223百万円下回る504百万円に修正いたしました。これらにより、売上総利益は173百万円減少する見込みであります。上述の販売費及び一般管理費の削減等により、営業損失は前回公表計画比157百万円増の462百万円、経常損失は前回公表計画比163百万円増の452百万円、当期純損失は前回公表計画比163百万円増の460百万円となる見込みであり、損益計画を修正いたします。

以 上

本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価および投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。